1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400763	
法人名	有限会社三浦建設	
事業所名	グループホーム福寿荘	
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字柳元276-1	
自己評価作成日	平成28年12月8日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会	
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号	
訪問調査日	平成29年9月27日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天井が高く開放的なホールにて、毎日心地良く、快適に過ごしていただいている。また、ホールの大きな窓から毎日岩木山を眺める他、四季折々の季節感を味わうことができる広々とした荘庭もあり、醍醐味となっている。当施設では通信カラオケの機械があり、毎日好きな歌を歌ってリフレッシュされている。更にホールへ大型スクリーン・プロジェクターがあり、体操を行ったり、歌番組を鑑賞されて楽しまれている。荘庭には東屋があるので、荘外散歩をされた際の休憩場所として利用されており、憩いの場となっている。ご家族や地域の方と共に行うイベント(夏祭り等)があり、触れ合いの良い機会となっている。毎月避難訓練を行っており、災害に対する意識・知識を日々向上できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は職員の笑顔と思いやりのあるサービス提供により、穏やかでゆったりとした生活を送っており、一つのユニットのホールに集まり、利用者合同で歌を歌ったり、体操やレクリエーションを行っている。
ホームでは災害発生時に備え、毎月、抜き打ちで避難訓練を実施している。
また、職員の提案により、居室には「連絡ノート」が備え付けられ、家族が面会に訪れた時に閲覧し、要望等、何でも書き込めるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したグループホームの意義を踏まえて、独自の理念を作成し、パンフレットに掲載している。荘内へ掲示して、全職員が常に理念を共有・意識するようにしている。職員一人ひとりが理念を反映させたサービス提供を目指している。	代表者自身の介護経験と「地域の人達と共に」という思いからホームを開設しており、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。また、あ・い・う・え・お順で言葉を取り入れ、わかりやすい表現で独自の理念を作成しており、職員は理念の意味を十分に理解し、日々、笑顔と思いやりのある対応を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の美容院や床屋へ出かけたり、地域の行事へ出かけている。また、夏祭りを毎年開催しており、地域の方々も気軽に参加され、利用者と共に楽しんでいる。中学生の職場体験や地域住民からの野菜の提供も受け入れている。	ホームでは地域との関わりを大事にしており、毎年開催する夏祭りの際は、挨拶がてらに町内にチラシを配布し、参加を働きかけている。また、近隣の小学校の運動会等に出かけている他、餅つき大会や神社での盆踊り等、地域行事にも参加し、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や家族からの見学・相談の他、職場体験学習を随時受け付けている。外部の方を受け入れる際には利用者へ事前に説明し、特にプライバシー保護へ配慮するように努めている。職員は認知症について十分に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーそれぞれの日程を考慮しつつ、定期的に運営推進会議を開催している。受診状況やサービスの実績等に関して報告を行い、向上に向けて、情報の交換をしている。また、自己評価や外部評価結果等についても説明を行っている。	年6回、運営推進会議を開催しており、会議終了後に次回の開催予定日を決め、後日調整した上でハガキで通知している。会議では、ホームからの行事等の説明に対して質疑がある他、メンバーからは地域に関わる様々な情報提供があり、ホームのより良いホーム運営、サービスの提供につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員または地域包括支援センター職員が運営推進会議へ参加している。パンフレットを配布しており、日頃から連絡・相談・報告を行いながら、連携を図っている。また、生活の質の向上に繋がるように努めている。	運営推進会議には、町の担当課職員か地域包括支援センター職員のどちらかが必ず出席しており、ホームの実態を理解していただいている。また、行政とは日常的に報告や連絡、相談しやすい関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての理解を深めることができるように、内部研修を行ったり、独自のマニュアルを置いている。居室や玄関へ施錠はしていないが、玄関へのみ感知センサーを設置しており、外出傾向を察知できるようにしている。やむを得ない理由で身体拘束が必要な場合には、詳細を家族へ十分に説明し、同意を得ている。	マニュアルの整備や研修への参加等を通じて、職員は身体拘束の内容や弊害を理解している。日中、玄関は施錠せず、居室も鍵がついていない。利用者の外出傾向に対しては、日常的に散歩や外出の機会を多く持つようにしている他、広い庭や裏の畑を利用しながら対応している。また、万が一の無断外出時に備え、近隣住民や運営推進会議のメンバーを通じて協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待を未然に防ぐことができるように、外部・内部研修に参加し、理解を深めている。虐待を発見した場合には社長へ速やかに連絡し、虐待が明らかになった際には、免職とする取り決めをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	荘内へ資料を置いており、職員や家族が理解を深めることができるようにしている。外部・内部研修へ参加することで知識を深めている。制度の必要性については、会議やカンファレンスの際に検討・話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(または入所前)には、利用者や家族へ事業所のケア方針や取り組み等について十分に説明し、意見や要望を聞き入れている。退去時も十分に説明を行い、退去先についての相談や連絡調整を行い、情報提供を行うことで、不安感を取り除くことができるように支援に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話・面談にて、定期的に本人や家族の意見・要望を聞いていおり、両棟へ意見箱を設置している。利用者の家族(2名)が運営推進会議のメンバーであり、外部へ意見や要望を話せる機会作りをしている。また、毎月の請求書送付時や面会時等に近況報告を行っている。	日頃から利用者との信頼関係構築を心がけ、利用者が気軽に、何でも話せる雰囲気づくりを行っている。また、家族代表が運営推進会議に参加しており、外部に意見を出せる機会が確保されている他、年4回広報誌を発行する際は、担当職員が利用者の暮らしぶり等を書いた手紙を同封し、郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行ったり、毎月の職員会議の場面において、職員が意見や要望を出しやすいように配慮している。その結果を踏まえて随時検討し、運営やサービスへ反映させるように努めている。	代表者も出席し、月1回、職員会議を開催しており、業務の改善策等を話し合っている。また、各居室に「連絡ノート」を備え付ける等、職員からの提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの勤務希望・勤務体制を考慮して、毎月の勤務表を作成している。また、積極的に資格取得ができるよう、勤務調整を行っている。就業規則については、随時職員が把握できるように管理している。夜勤回数に応じて、年に1・2回に健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修をなるべく平均的に受講しており、独自の年間研修計画を作成している。また、勤務調整を行い、支援している。研修受講後には報告書を作成し、内部研修や会議等にて報告しながら、意見交換を行っている。全職員が周知できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市町村のグループホーム協会へ加入しており、研修や交流会へ参加している。また、行政主催の研修や交流会へも参加しており、同業者と意見交換を行い、日々のサービスの質の向上へ反映させるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際には、来荘していただくか本人の所へ直接出向き、希望や不安等を聞いて十分に受け止め、理解するように努めている。本人が納得できるように十分な説明を行い、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際には、家族の都合の良い時間に合わせて来荘していただくか、直接出向いて話し合いをしている。要望や希望、不安等を十分に受け止め、理解している。気軽に話しやすい環境作りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族より意見・希望を聞いて十分に理解した上で、必要な支援を提案するようになっている。また、必要に応じて他サービス機関へ相談・報告・連絡を行い、本人や家族と共に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの性格や生活歴等を十分に理解した上で、表情・行動・言動から気持ちを読み取り、日々共感できるように努めている。得意分野で力を発揮できるよう、職員と一緒に洗濯物を畳んだり、野菜の下処理・調理をしたりと、共同しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各居室へ連絡ノートを置いており、日々の暮らしがわかるよう、また、職員と家族が気軽に連絡を取り合うことができるように工夫している。面会時には状態報告を行い、家族から意見や希望を聞いている。その他、電話・文書・広報誌等にて、報告・相談・連絡を密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族より聞き取りを行い、馴染みの場所や知人等を十分に把握できるように努めている。また、病院・美容院・スーパー・自宅・知人宅へ気軽に外出し、楽しむことができるように支援している。面会・電話・手紙等を通じて、交流が継続されるように努めている。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションの中から、利用者の生活歴や関わってきた人、馴染みの場所等を把握している。職員は利用者がこれまで大切にしてきた関係を継続できるよう、希望に応じて、外出や面会等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケ・体操・軽作業・行事等、利用者同士の人間関係を十分に把握しつつ、孤立せずに支え合うことができるように支援している。トラブルを未然に防ぐように努めているが、トラブルが生じた場合には十分に傾聴しつつ、仲裁に入っている。必要に応じて個人面談を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも必要に応じて相談や支援等ができることを、重要説明事項や契約書に明示しており、契約時に説明し、関係を継続できるように努めている。また、生活歴やケア等の情報については退去先の関係機関へ情報提供し、継続されるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援を通して、利用者の視点に立って、本人の思いや希望を把握するように努めている。また、家族・知人・関係機関からも情報収集を行い、本人の思いや意向を把握して、日々のケアへ繋げることができるように努めている。	職員は居室で利用者と二人だけの時間を設け、コミュニケーションを図りながら、利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。ホームでは担当制を採っているものの、外出や散歩、ホールでの作業等、様々な場面の中で、全職員で利用者の思いを把握し、共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーへ十分に配慮しつつ、利用者の生活歴・ライフスタイル・個性・価値観・地域との関わり等、これまでの暮らしぶりについて情報収集を行っている。また、全職員で十分に把握し、ケアするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言動・行動・体調等を十分に観察しながら記録し、生活リズムやできる事について、十分に把握できるように努めている。その上で、それぞれの生活の質が維持・向上されるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしを続けることができるように、本人や家族の思い・意向を十分に把握し、関係者を含めて、本人の生活がより良いものとなるように介護計画を作成している。その後、十分に観察を行いながら随時検討し、また、定期的に見直しをして意見交換を行いながら、評価・再アセスメントを行っている。	介護計画は利用者の意向を把握した上で、それに相応しい援助内容を具体的に定め、作成している。職員は日頃から利用者の状態を注意深く観察し、月1回、全職員でカンファレンスを実施している他、3ヶ月に1回、モニタリングを行っている。また、実施期間の途中で変化が見られる場合には、随時見直しを行い、利用者の状況に即した介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の体調を観察しながら、その都度、本人のニーズを見極めている。その後、必要に応じて本人や家族と利用するサービスを決めて、連絡・調整をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域包括支援センター・地区の民生委員・協力委員・老人クラブ会長等と意見交換・情報交換を行いながら、協力体制を築いている。必要に応じて他事業所と連絡・報告・相談を行い、連携を図りながら、サービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族が希望する医療機関へ受診できるように支援しており、受診結果の詳細については家族へ報告している。また、必要に応じて家族も受診へ同伴している。これまでの受療状況については、全職員が情報を共有できるように記録し、管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に相談して納得・了解が得られた場合、本人の病状や健康状態を考慮しながら、かかりつけ医への受診支援を行っている。受診結果は家族へ口頭で報告し、家族が付き添う場合には日頃の様子を伝え、受診できるようにしている。	入居時にこれまでの受療状況の聞き取りを行い、入居後の受診についても意向を確認している。ホームでは、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活においては、利用者の細やかな異変に気づき、報告をする体制となっており、様子を観察して、かかりつけ医や家族と相談しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び家族と連絡を密に取り合い、情報交換や相談に努めている。普段から他の医療機関と連絡を取り合い、報告・連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関やかかりつけ医へ事前に報告しており、家族の意向を把握し、できる事やできない事を明確にしながら取り組んでいる。	重度化や終末期の対応について、入居時にホームの方針を説明しており、これまでも看取りの実績がある。また、家族に対し、「看取り介護実施に関するアンケート」をお願いしており、それを基に職員間で話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受講し、定期的に研修を実施して、全職員が応急手当やその後の対応を行えるように学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練の他、総合訓練は年2回、消防署や設備の方の立ち会いのもとで実施している。また、年1回の設備点検も行っている。災害用の水や食料品等の備蓄品を確保している。	年2回、総合訓練を行っており、運営推進会議で協力を働きかけている他、町内会にも呼びかけを行い、消防署立会いのもとで実施している。また、いざという時に備え、ホームでは毎月、予告無しの避難訓練を行っている他、災害発生時に備えて、食料や飲料水、発電機等も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しつつ、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。個人情報に関する書類はケースに、また、緊急連絡先等はユニットへ置き、取り扱いには十分に注意している。	職員は利用者の要望等に耳を傾け、一緒に行動し、本人が納得できる状況を作るように努めており、利用者を尊重したサービス提供に取り組んでいる。また、守秘義務や個人情報の取り扱いについて、職員は採用時に誓約書に記名し、その後も確認の機会を持ちながら、徹底して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心できる生活環境を作れるように、一人ひとりに合わせた声かけをして、レクリエーションや作業は強制せず、無理のない範囲で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースを大切に、できる限り、本人のリズムに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する場合、美容院の予約や送迎支援を行っている。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさで洋服を選択し、決めるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしている利用者が多く、できる方には野菜の皮むき等の調理、食器拭きを手伝っていただいている。また、利用者の嗜好を把握している。	入居時の聞き取りや入居後の関わりの中で、利用者の好き嫌い等を把握しており、献立は職員の輪番制により作成している。職員は必要な介助をしながら、会話の取り持ちをしたり、食事の手が止まっている利用者に声かけを行い、楽しい食事時間となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は毎食チェックを行い、記録して、必要な量が取れているか、職員が気をつけている。一人ひとりに合った形態や調理方法にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導をして口腔ケアを行っている。義歯の方は外して磨いていただき、夜間義歯の方は専用の洗浄剤に入れて洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しており、利用者の状態に合わせて、パンツ型オムツやパット、オムツを検討して誘導することで、トイレでの排泄ができるように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、パターンに応じた事前誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、誘導時や排泄の失敗時等は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して声がけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレで腹部マッサージを行っている他、利用者の好みに合わせて乳製品を飲用されたり、荘内運動を行う等して排便を促している。体操時に無理なく身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回となっているが、利用者の希望に沿った支援をしている。入浴しながら利用するには声がけの仕方を工夫したり、タイミングをみて、無理のないような声がけをしている。	職員の提案により、入浴の順番はその都度、くじ引きで決めており、利用者の楽しみの一つとなっている。ホームでは週2回の入浴としているが、ユニット毎に入浴の曜日を変えているので、利用者の希望に柔軟に対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体力や年齢に合わせ、居室・ホールにて自由に休んでいただいている。夜間眠れず、不快な思いをされている利用者には、日中に活動を促して、十分に休むことができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりのケース記録に処方箋を入れ、全職員がいつでも確認できるようにしている。服用時には、本人に手渡しをしたり、確実に服用しているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて役割を持っていただき、できる力を最大限に発揮できる場面作りをしている。必要に応じて、家族等に協力を呼びかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には荘外を散歩され、ドライブ等に出かけて気分転換を図っている。外気浴しながら体操も行っている。	できるだけ戸外へ出るように支援しており、紫陽花や山桜等、様々な花木が植えられている広い庭は、利用者が季節を感じ、楽しむことができる絶好の散歩・散策の場となっている。また、利用者の希望等を取り入れながら、年間の外出行事を計画している他、行事を行う際は必ず前もって家族にお知らせし、参加を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な利用者については施設で管理しているが、外出時には本人へお金を渡し、買いたい物を選んでいただき、支払っていただく。自販機でジュースを購入されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から電話が来た際には本人と代わり、やり取りをしていただいている。手紙のやり取りについても、必要に応じて投函する手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはソファを置いて、利用者同士がおしゃべりをしながら居心地良く過ごし、四季の花を楽しんでいただいている。各棟へ空気清浄機を設置し、消臭と感染症予防に努めている。	ホールは天井が高く、壁や扉等は全体的に白っぽい色で統一され、明るく清潔感がある。また、大きな手作りの干支のちぎり絵が飾られ、家庭的な雰囲気醸し出している。窓は大きく、日差しもたっぷり入り、ホーム内の明るさも十分である他、ホーム内に温度・湿度計を設置して、快適な空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりと休まれたり、一人ひとりの心身に合わせて過ごせるように配慮している。居室で一人で自由に過ごされたり、気の合う利用者同士で行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を持ち込んでいたり、家族の写真を飾る等、利用者が居心地良く過ごせるように努めている。	居室にはベッドやロッカー、時計が備え付けられており、位牌や衣装ケース、椅子、家族の写真、人形等、多様な物が持ち込まれている。また、居室には「連絡ノート」が常時置かれているため、家族は面会時等に閲覧して、利用者の近況を知ることができ、感想や意見、要望等も書き込めるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、空間の調節を行っている。各居室には果物やお花等で目印を付けており、利用者が自立した生活を送り、生活機能の低下防止に努めている。		